



2019年4月16日

各 位

会 社 名 株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
代 表 名 代表取締役社長 瓜 生 憲  
(コード番号：4436 東証マザーズ)  
問合わせ先 取締役副社長 兼 C F O 高田 隆太郎  
(TEL. 03-6867-1531)

### 業績予想の上方修正に関するお知らせ

当社は、2019年4月16日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2019年3月19日付で公表しました2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の通期の業績予想を上方修正することとしましたのでお知らせいたします。

#### 1. 当期の個別業績予想値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,000	441	200	150	140	12.20
今回修正予想（B）	2,030	491	250	200	190	17.10
増減額（B－A）	30	50	50	50	50	
増減率（％）	1.5	11.3	25.0	33.3	35.7	
（参考）前期実績 （2018年3月期）	1,370	276	142	109	△126	△11.51

1. 当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2019年1月16日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、2018年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算出しております。
3. EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却費としています。
4. 前期（2018年3月期）実績について、当社は、2018年3月期中のグループ内の組織再編により、2018年3月末において連結対象子会社はなくなり、2018年3月末時点での連結貸借対照表が存在しないことから、2018年3月期の連結財務諸表にかかる会計監査は実施されておられません。2018年3月期の連結損益計算書（2017年4月1日から2018年3月31日）の未監査数値（以下：連結）の売上高は1,681百万円、EBITDAは291百万円、営業利益は110百万円、経常利益は71百万円、当期純利益は△200百万円となっております。

#### 2. 修正の理由

当社は現在、金融・経済関連情報の提供に特化したB2Cのメディア事業及びB2B・B2B2Cのソリューション事業を展開しており、メディア事業における「みんなの株式」「株探」など当社が運営するメディアのユーザーベースを活用した広告収入や課金収入等の拡大、ソリューション事業における、テーマ情報、AIニュース、クラウドデータ提供、AIレポート、IVR、FX・CX情報端末サービス等の初期導入、月額利用料等の拡大の双方により、効率性の向上を担保した再現性の高い収益の成長を目指しております。

2019年3月期の業績は、主として2019年3月において予定していたメディア事業の広告収入や課金収入、ソリューション事業の初期導入が順調に推移し、継続的な月額利用料にかかる売上高も計画を上回ったことに加え、初期導入作業にかかる費用も効率的に推移した結果、EBITDA、営業利益、経常利益及び当期純利益につきましても、計画を上回る着地となる見込みになりました。

また、当期純利益につきましては、2019年3月期年度決算の確定作業の中で、2020年3月期以降の繰延税金資産を算定中であることから、これによる影響を見込んでおりません。当社の継続的な利益成長体制の構築によるこれら繰延税金資産の認識により、開示基準にかかる当期純利益の変動がある場合は、見込数値を認識後速やかにお知らせいたします。

本業績予想修正にかかる具体的な要因については、以下のとおりであります。

(売上高)

① メディア事業

メディア事業の売上高については、当社メディアの利用者数の継続した拡大と利用者の利便性の向上施策の継続に加え、2018年3月期にサービスを開始した、課金サービス「株探プレミアム」や暗号資産情報サイト「みんなの仮想通貨」の通期寄与を受け堅調に推移いたしました。これらの結果、メディア事業の2019年3月期の売上高計画は修正前計画の950百万円に対してほぼ予定通りの着地となる見通しであります。

② ソリューション事業

ソリューション事業の売上高については、月額利用料型で提供するテーマ、AI ニュース、クラウドデータ提供、AI レポート、IVR、FX・CX 情報端末サービスなどの既存商材の拡販、及び2019年3月期より提供を開始した保険ロボアドバイザーの地銀向け提供や、上場企業の情報を低価格で取得・分析・報告できるリアルタイム情報サービス「MINKABU Corporate-Cue」等の新規商材を含む継続したストック型の売上高が750百万円の修正前計画に対して780百万円（修正前計画比4.0%増）となる見通しであります。

期ずれのリスクのある2019年3月の初期導入費やデータ販売などの一時売上高は、新規獲得300百万円の修正前計画に対し概ね計画通り進捗し、ソリューション事業の売上高は、修正前計画の1,050百万円に対して1,080百万円（修正前計画比2.9%増）となる見通しであります。

これらの結果、2019年3月期の当社売上高は2,000百万円の修正前計画に対して2,030百万円（修正前計画比1.5%増）となる見通しであります。

(売上原価、売上総利益)

売上原価は、ソリューション事業における開発環境整備のためのシステム共通基盤投資に伴う、減価償却費、システム運用費、データ取得原価を中心とした固定費の効率化により、1,116百万円の修正前計画に対して1,096百万円の見通しであります。

これにより、2019年3月期の売上総利益は、884百万円の修正前計画に対して934百万円となり50百万円の増加（修正前計画比5.7%増）の見通しとなりました。

販売費及び一般管理費は、ほぼ計画どおりの着地を見込んでおり、2019年3月期の営業利益は、修正前計画の200百万円に対して250百万円（修正前計画比25.0%増）の見通しであります。

またこれに伴い、2019年3月期の経常利益は、修正前計画の150百万円に対して200百万円（修正前計画比33.3%増）の見通しであります。当期純利益は、修正前計画の140百万円に対して190百万円（修正前計画比35.7%増）の見通しであります。

当社は、主としてストック型の売上高構成とその成長を継続しており、費用面では固定費中心の事業運営を進めております。このため、売上高の上昇に伴って、効率性が向上する現在のビジネスモデルとなっておりますが、継続した成長の実現に向けたシステム投資を継続し、提供するサービスの拡充ならびに質の向上を目指しております。このため、経営陣では、EBITDAの成長を重要視しております。2019年3月期のEBITDAは、441百万円の修正前計画に対して491百万円（修正前計画比11.3%増）の着地となる見通しであります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上